

# 第2分科会整理案に対する 各地区部会の意見

平成27年7月2日

## 【東青地区部会】

### 1 学校規模・配置に関する基本的な考え方について

- 当面の10年間について検討することは良いと思うが、施設の整備も考えると、耐用年数など先々を見据えた計画を考える必要がある。

### 2 高等学校教育を受ける機会の確保について

- 中学生が進学先の高校を選択する際は、どの高校に入学したいかということよりも、通える高校を最初に考える。公共交通機関で通える学校配置が必要である。
- 郡部校を統合する場合には、町としても生徒の通学支援策を考えなければならないが、まずは県が方向性を示す必要がある。

### 3 充実した教育環境の整備について

- あらゆる高校で取り組むことが求められるアクティブ・ラーニングが、あえて「教育環境の整備」に含まれることに違和感がある。
- アクティブ・ラーニングに慣れていない教員もいることから、どこか一つの高校で実施方法を研究して、その成果を各校で共有すれば良い。
- 就職や進学で県外に出たとしても、いずれ戻ってくるような、青森らしい高校教育の環境ということに言及する必要があるのではないか。
- 大学の研究施設などに中学生、高校生が参加したり、産業の開発にも携わっていくような教育ができれば、人口流出を止める一つの手段になるのではないか。
- 重点校、拠点校としての機能を十分に果たすためには、教員配置の充実が必要である。

### 4 学校規模の方向性について

- 工業高校の拠点校としては、機械系・電気系・建築系・土木系の基本的な学科があれば、社会のニーズにも応えられるのではないか。
- 総合学科は、教育課程を組む上でも、教員定数においても最低4学級は必要である。
- 学級数が減るとどういった影響があるのかを示し、理解いただくことが必要である。
- 「標準」という表現では、県民は全ての学校で4学級以上を必ず確保しなければならないと思ってしまうのではないか。

### 5 学校配置の方向性について

- 新設による統合や複数の学科を有する高校の設置は良いと思う。
- 1学年1学級規模の高校の募集停止については、予め具体的な基準を示して理解してもらった方が良いと思う。

### 6 定時制課程及び通信制課程の方向性について

- 定時制の役割は、働きながら学ぶ生徒の受け皿というより、様々な事情を抱えている生徒等の受け皿となっている部分もある。
- 工業高校の定時制を目指している生徒が少ないことや、産業構造の変化、定時制課程で工業科目を履修することの限界等についても言及してはどうか。

### 7 学校規模・配置とともに検討すべき事項について

- 学力向上だけでなく、違う魅力があれば遠方からでも生徒が集まると思う。
- 市内の普通高校を全て単位制にして、単位互換をすることを検討しても良いのではないか。

## 【西北地区部会】

### 1 学校規模・配置に関する基本的な考え方について

- 日本を見る、世界を見るということも大事だが、地域を支える人財も必要である。児童・生徒数の減少が著しい西北地区として、「高等学校教育を受ける機会の確保」と「充実した教育環境の整備」の両面の考慮が強く必要とされる。

### 2 高等学校教育を受ける機会の確保について

- 平成39年には地区全体で18学級になり、学校規模の標準からすると5校程度になる。全校を残すということではないが、公共交通機関の配慮等を併せて考える必要がある。
- 生徒が現在住んでいる地域も大事だが、生徒がどこの高校を目指しているのか、動態を見定める必要がある。
- 町村部では小学校、中学校と同じ顔ぶれであるため、高校だけは別な環境の学校に進学したいという思いの生徒が結構いる。子どもたちの「将来を自由に選択したい」という願いと、大人の願いは必ずしも一致していない。
- 広範囲にわたって高校のない地域は作って欲しくない。

### 3 充実した教育環境の整備について

- 普通科の重点校は、「オール青森」というよりは西北地区に限定して考えるべき。
- 重点校や拠点校は、西北地区ではなく県全体のことを検討しているように感じる。
- このままではどの学校も規模を縮小するだけになり、デメリットが大きい。特色ある教育活動に取り組む必要がある。そして、その特色ある教育活動から得られたノウハウを他校の生徒とも共有する必要がある。
- 保護者もクラスに生徒が十数人しかいない高校よりも、クラスに40人いる高校に入学させたいと思っている。

### 4 学校規模の方向性について

- 中学校としては、様々な選択肢がある現状が望ましいが、10年後、20年後には難しい。4学級が標準とされているが、場合によっては3学級、次の段階では異なる学科の高校の統合も考えなければ厳しいと思う。
- 農業や工業の拠点校に子どもたちが進学するとなると、周辺の学校は一気に消滅してしまうのではないか。
- ある程度の人数がいなければ、進学にしろ、スポーツにしろ、学校の力を維持できないので、西北地区の拠点となる学校は4学級以下にするべきではない。

### 5 学校配置の方向性について

- 生徒数減少は明らかなので、思い切った視点で考えて決断しなくてはならない。現在のように普通科、農業科、工業科、総合学科と選択肢がある状態は長くは続かない。
- これからは、農業と工業をタイアップさせるような発想の転換が必要である。
- A高校とB高校の中間に新たなC高校を作ったとしても、それほど効果は無い。子どもも保護者も規模の大きい中心的な学校を選択するケースが多い。
- これまで西北地区は統合してこなかった現実があるため、全ての学校を残して欲しいとは言っていないだろう。
- 三市の募集を減らして、三市以外の高校に生徒が進学するようにしてはどうか。募集停止の基準を明確にすると、郡部の高校だけが苦しい状況になる。

### 6 定時制課程及び通信制課程の方向性について

- 定時制工業科を目指す生徒は少なく、今後の在り方をしっかり検討する必要がある。

## 【中南地区部会】

### 1 学校規模・配置に関する基本的な考え方について

- 「高校教育を受ける機会の確保」と「充実した教育環境の整備」は相反する内容ではないか。
- 「オール青森」という言葉だけでは県民にはわかりづらいと思うが、その説明も十分果たしながら、議論を進めていく必要がある。

### 2 高等学校教育を受ける機会の確保について

- 高校への進学を希望する生徒がいた場合、どういう生徒であれ、高校教育を受ける能力があると判断された場合には、高校教育を受ける機会を確保する必要がある。
- 「オール青森」の視点で高校のレベルを底上げしていくため、重点校や拠点校も重要だが、そのような学校への通学環境の確保も必要である。
- 中南地区においては、通学の問題で進学が危ぶまれるという状況はあまりない。
- 通学支援に関しては、市町村や家庭等に任せるのではなく県の支援も必要である。

### 3 充実した教育環境の整備について

- 中学生の希望は重点校や拠点校に集中するのではないか。
- 自分で課題を解決し、人間性を身に付けるためには、他校の生徒と交流して切磋琢磨することやコミュニケーションをとることが必要である。そういう意味で、拠点校を設置した上で、他校と交流を図ることは重要である。
- 現状において進学に向けて成果を上げている学校でも、特色を出さないと学級数が確保できなくなるのは納得がいかない。

### 4 学校規模の方向性について

- 科目の開設等を考えると4学級という規模はギリギリのラインではないか。
- 子どもたちが生き生きと活動できるよう、例えば、ゲストティーチャーによるキャリアデザインのきっかけとなるような支援が必要である。
- 中学生にとっては、大学進学に対応する高校、就職・進学ともに対応する高校、専門高校といった選択肢が必要である。

### 5 学校配置の方向性について

- 募集停止等に関して基準があれば住民も仕方ないと思うのではないか。基準がない場合には反発も出てくると思う。
- 募集停止の基準があるとそれが前提になってしまう。柔軟な対応が必要である。
- 募集停止や統合をする際には、市町村の理解を得ながら進めて行く必要がある。

### 6 定時制課程及び通信制課程の方向性について

- 定時制課程の工業科は、女子生徒は希望しづらい。
- 定時制課程の工業科を否定するものではないが、入学者が少ないという現状を踏まえて考えていかなければならない。

### 7 学校規模・配置とともに検討すべき事項について

- 中南地区における併設型中高一貫教育は難しいと思う。
- 弘前大学教育学部附属中学校があるために併設型中高一貫教育ができないのであれば、弘前大学とも話し合いをしながら、検討を進めることも考えたい。

## 【上北地区部会】

### 1 学校規模・配置に関する基本的な考え方について

- 遠隔地からの通学に対する支援について専門的な組織を作り、引き続き検討する必要がある。

### 2 高等学校教育を受ける機会の確保について

- 地理的要因から高校に通学できない地域が新たに生じないよう配慮することは非常に大事である。
- 重点校、拠点校を設置する場合、かなり広いエリアから生徒が通学することになると思うが、重点校、拠点校への通学が可能となる手法を考えなければならない。
- 町の運行する小中学生のスクールバスを高校生も利用した場合に補助があるのか。また、保護者がバス会社に働きかけると良い方向に行く場合もある。

### 3 充実した教育環境の整備について

- 重点的な取組をしようとしても学校の規模が小さいと取り組む体力がなくなる。
- 重点校や拠点校を中心に、全ての学校のレベルを上げるということは良いと思う。
- 本来の単位制を実施するためには相応の教員数が必要である。
- 併設型中高一貫教育は、選抜性の高い大学を目指すような高校でなければ厳しい。
- 中等教育学校を設置して、本来の学力で医学部に進学できる人財を育成することが求められているのではないか。
- グローバル人材育成等のためではなく、他県のように「進学重点校」とするなど、目標を分かりやすくした方が良い。
- 生徒数が減少する中で、拠点校という考え方は必然である。設置に当たっては、産業構造や今後の産業振興の方向性を踏まえることが重要である。

### 4 学校規模の方向性について

- 重点校の規模として、6学級を下回ると厳しい。
- 学級数が多いほど選択肢が増えることは事実であるが、統合した場合にも小規模校が実施してきたことをしっかりと引き継いでもらいたい。
- 重点校や拠点校が設置されると、その学校の志願倍率だけが上がって、他校の倍率は下がり、統廃合が早まるのではないか。
- 学校規模の「標準」という表現は、最低ラインとして捉えられる。
- 施設整備の数年後に統合とならないよう、高校の施設整備は計画的に行って欲しい。

### 5 学校配置の方向性について

- 市町村長や教育長、学校長、PTA、希望者を交えて広く意見を聞く必要がある。
- 統廃合の基準は必要である。この基準は、話し合うタイミングを示したものとし、直ちに統合ではなく、協議会などを設けた上で結論を出すべきである。

### 6 定時制課程及び通信制課程の方向性について

- 不登校の子どもが学び直せるような環境があっても良いと思う。

### 7 学校規模・配置とともに検討すべき事項について

- 全国からの生徒募集は、高校に魅力がなければ生徒は来ない。例えば、八戸水産高校の専攻科には全国から生徒が入学している。
- 小規模校等では、ICTの活用による遠隔授業もあり得るが、人対人の教育が大切である。ICTを活用した教育の研究を進めることで、格差が埋まると良い。

## 【下北地区部会】

### 1 学校規模・配置に関する基本的な考え方について

- 「高校教育を受ける機会の確保」と「充実した教育環境の整備」の両面への配慮については、是非、答申にも反映すべきである。地域の実情に応じてどちらに比重を置くかを検討する必要はあるが、両面の考えを取り入れた施策にしていきたい。

### 2 高等学校教育を受ける機会の確保について

- 市町村等との連携による生徒の通学環境の充実に関して、子どもたちにとって良いのはスクールバスの運行だと思う。
- むつ市では高校生に対して奨学金を貸与している。
- 川内校舎は、旧むつ市から入学する生徒が多く、通学のバス代の負担が大きい。

### 3 充実した教育環境の整備について

- 重点校は、「中核校」とした方が誤解なく伝わるのではないか。
- 地域で求められる人財育成に特化した教育課程を編成できる重点校は必要である。
- 医師を志す生徒、就職を目指す生徒、スポーツに力を入れる生徒等、多様な生徒に対応する方法として、選択の幅を広げて指導できる単位制は有効である。
- 当地区には、工業だけではなく、農業や水産に関する学科もあれば良い。

### 4 学校規模の方向性について

- 総論は整理案の規模が良いが、各論は地域の実情を踏まえる必要がある。
- 「標準」はあくまでも目安であり、標準に満たない場合でも地区の事情を考慮していただきたい。「標準」という表現で目安という意味合いは伝わると思う。
- 重点校としては6学級以上が望ましいと考えるが、地域の実情に照らし、近隣の学校と連携する重点校としての機能は5学級であっても果たすことは可能である。
- 他校への通学が困難な地域としては大間地区や川内地区が考えられる。

### 5 学校配置の方向性について

- 学校配置に関する地域との協議は必要であり、丁寧に何度も協議を重ねてお互いの理解を深める必要がある。
- 募集停止や統合の基準を示す必要はあると思う。基準を示せば、理解する地域の人はいらと思うが、学校がなくなることにに関して、不満な気持ちはあると思う。
- 校名を新しくする「新設」という表現は良い。「新設」という言葉は、新しく希望に燃えて学校生活を送るといった印象を持つので良いと思う。
- 生徒数が減少していく中で、小規模校を残すよりは、複数の学科を設置した高校とし、連携した方がうまくいくと思う。

### 6 定時制課程及び通信制課程の方向性について

- 定時制、通信制は現状の配置を継続して欲しい。また、通信制の面接指導にICTを活用することや、定時制にソーシャルワーカー等の専門職の配置をして欲しい。
- 下北地区への昼間定時制の設置を検討して欲しい。

### 7 学校規模・配置とともに検討すべき事項について

- 島根県立隠岐島前高校は町からのバックアップがあつて実績を残しており、全国からの生徒募集には、高校の所在する自治体の協力が必要である。

## 【三八地区部会】

### 1 学校規模・配置に関する基本的な考え方について

- 「高校教育を受ける機会の確保」と「充実した教育環境の整備」の両方が大事である。

### 2 高等学校教育を受ける機会の確保について

- 自宅の近くに高校があればベストだが将来は難しくなる。通学環境について、県が市町村に対して財政支援や市営バスの運行等をお願いすることがあると思う。
- 通学支援については、県ができることと市町村ができることを明確にすべき。

### 3 充実した教育環境の整備について

- 重点校や拠点校を設置することは良いことだと思う。重点校、拠点校、それ以外の学校があれば、役割の異なる学校から選択できるため、高校の選択肢が広がる。
- 重点校以外の学校は、重点校の取組を取り入れるということで理解している。医師を志す高校生支援事業のような予算措置が是非とも必要である。
- 併設型中高一貫教育は拡充すべきだと思う。全国的に進学に特化した学校が多い。
- 単位制の新たな導入は、理念どおりに出来るのか検討する必要がある。
- 拠点校を作ってそのノウハウを波及させることができるならば、水産科を除き、必ずしも本地区に拠点校を置く必要はない。拠点校とそれ以外の学校との連携が重要である。

### 4 学校規模の方向性について

- 学校規模の標準を4学級以上とすることについて、維持できる市部と、維持が難しい郡部でそれぞれ基準を設ける必要があると思う。
- 重点校の6学級以上は妥当だと考える。「標準」という表現は、その規模を必ず守るといえるように見える。

### 5 学校配置の方向性について

- 学校配置については、計画作成段階から、協議会等により地域の意見を聞くことが必要である。
- 確かな学力を身に付けるためにはある程度の学校規模が必要である。それに伴い募集停止等も考えられるが、その基準や、通学支援は必要である。
- 募集停止や統合は、当該校の卒業生にとってショックなことだろうが、対応していかなければならないことだと思う。そのためにも前置きとなる基準は必要である。
- 「新設による統合」という表現からは、現在の場所ではなく、通学環境等に配慮しながら新しい場所に高校を建設するものと受け取られる。
- 新校に伝統が引き継がれていくのであれば、統合校関係者のネガティブな感情は防げると思う。校名等を新たに作る「新設による統合」自体は良い案だと思う。
- 複数学科を有する高校を設置する場合には、教育環境を考慮する必要がある。

### 6 定時制課程及び通信制課程の方向性について

- 定時制は高校教育を受ける機会の確保として必要であり、6地区に置くことに賛成である。定時制の工業科は、生徒が極めて少ない状況で継続するのは難しい。

### 7 学校規模・配置とともに検討すべき事項について

- 島根県立隠岐島前高校は、入学者が減少した時に町の支援を受けて島外から生徒を募集し、町が塾を開設して学習面をケアするなど、町全体で取り組んでいる。
- 普通科系の専門学科の在り方について、再検討すべきであると考ええる。